

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 6 部門第 2 区分
【発行日】 令和 5 年 2 月 8 日 (2023.2.8)

【国際公開番号】 WO2021/246402
【出願番号】 特願 2022-528844 (P2022-528844)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30(2006.01)

G 0 2 B 5/26(2006.01)

C 0 3 C 27/12(2006.01)

10

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 B 5/26

C 0 3 C 27/12 N

【手続補正書】

【提出日】 令和 4 年 11 月 25 日 (2022.11.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

20

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

波長選択反射性を有する反射フィルムであって、

140℃で30分間保持したときの、平均熱収縮率が0.5%超2.5%未満であり、
前記反射フィルムの辺縁部に切り欠き部を有する、反射フィルム。

【請求項 2】

前記反射フィルムが複数の前記切り欠き部を有する請求項 1 に記載の反射フィルム。

【請求項 3】

前記切り欠き部が湾曲部を有し、

前記湾曲部の最小の曲率半径が100mm以上1700mm以下である請求項 1 または
2 に記載の反射フィルム。

30

【請求項 4】

前記湾曲部の最小の曲率半径が100mm以上900mm以下である請求項 3 に記載の
反射フィルム。

【請求項 5】

前記湾曲部の最小の曲率半径が100mm以上700mm以下である請求項 3 または 4
に記載の反射フィルム。

【請求項 6】

前記湾曲部の最小の曲率半径が100mm以上500mm以下である請求項 3 ～ 5 のい
ずれか一項に記載の反射フィルム。

40

【請求項 7】

前記湾曲部の最小の曲率半径が100mm以上300mm以下である請求項 3 ～ 6 のい
ずれか一項に記載の反射フィルム。

【請求項 8】

前記切り欠き部の深さ D₁ が 10mm ～ 250mm である請求項 1 ～ 7 のいずれか一項
に記載の反射フィルム。

【請求項 9】

基材および前記基材の一方の主面側に配置される反射層を有する請求項 1 ～ 8 のいずれ

50

か一項に記載の反射フィルム。

【請求項 10】

前記反射層がコレステリック液晶層である請求項 9 に記載の反射フィルム。

【請求項 11】

前記反射層の選択反射中心波長が、可視光から赤外光の波長帯域に存在する請求項 9 または 10 に記載の反射フィルム。

【請求項 12】

前記反射層の選択反射中心波長が、可視光に存在する請求項 11 に記載の反射フィルム。

【請求項 13】

前記反射層が選択反射中心波長の異なる 2 層以上のコレステリック液晶層である請求項 9 に記載の反射フィルム。 10

【請求項 14】

請求項 1 ～ 13 のいずれか一項に記載の反射フィルムを 2 枚のガラス板の間に配置して、2 枚の前記ガラス板に加熱圧着処理を実施して合わせガラスを製造する、合わせガラスの製造方法。

【請求項 15】

ガラス板の端辺から 100 mm 以内の位置に前記反射フィルムを配置して前記加熱圧着処理を実施する請求項 14 に記載の合わせガラスの製造方法。

【請求項 16】

2 枚の前記ガラス板の最大曲深さが 15 mm 以上である請求項 14 または 15 に記載の合わせガラスの製造方法。 20

【請求項 17】

2 枚のガラス板と、2 枚の前記ガラス板の間に配置される反射フィルムと、を有し、

前記反射フィルムは、波長選択反射性を有し、

前記反射フィルムは、辺縁部に切り欠き部を有する、合わせガラス。

【請求項 18】

2 枚の前記ガラス板の最大曲深さが 15 mm 以上である請求項 17 に記載の合わせガラス。 30

30

40

50